

---

# 神奈川県鎌倉市における鎌倉時代の森林破壊

## Destruction of Forest in the Kamakura Period at the Kamakura City, Kanagawa Prefecture

鈴木 茂

[要 旨] 神奈川県鎌倉市においては、12世紀末の鎌倉幕府開府以来、それまでの農村的イメージから軍事都市へと急変した。この鎌倉の発展にともなって行われた大規模な土地開発と木材利用により鎌倉周辺の森林は多大な影響を受けたことが花粉分析から明らかとなってきた。以下に、(1)永福寺跡、(2)北条高時邸跡の花粉分析結果を示し、鎌倉における鎌倉時代の森林破壊について述べる。

### (1)永福寺跡

13世紀初めから前半頃まではスギ、コナラ属アカガシ亜属、シイノキ属-マテバシイ属が優勢であった(花粉化石群集帯Y-I)。13世紀中頃から後半の期間はスギが衰退し、マツ属複雑維管束亜属とコナラ属コナラ亜属が増加した(Y-II)。13世紀後半以降ではアカガシ亜属やシイノキ属-マテバシイ属も衰退し、マツ属複雑維管束亜属が優占するようになった(Y-III)。

### (2)北条高時邸跡

13世紀前半まではスギ、アカガシ亜属、シイノキ属-マテバシイ属が優勢であった(花粉化石群集帯H-I)。13世紀後半~14世紀?の期間はスギ、アカガシ亜属、シイノキ属-マテバシイ属が衰退し、ニレ属-ケヤキ属、エノキ属-ムクノキ属が優勢となり、マツ属複雑維管束亜属も増加した(H-II)。15世紀以降ではニレ属-ケヤキ属、エノキ属-ムクノキ属も衰退し、マツ属複雑維管束亜属が優勢となった(H-III)。

このように、13世紀の前半から後半にかけて鎌倉の森林植生が大きく変わることが明らかとなってきた。この期間の鎌倉は大きく発展し、都市整備が盛んに行われた。また、鎌倉の発展にともない木材利用も増大した。以上のように、開府後しばらくした13世紀前半から後半にかけて鎌倉では都市整備・木材利用などにより植生破壊が進み、スギ、アカガシ亜属、シイノキ属-マテバシイ属からマツ属複雑維管束亜属へと植生の交代がみられた。

## 1. はじめに

神奈川県鎌倉市においては、西暦1192年の鎌倉幕府開府以来、それまでの農村的イメージから軍事都市・政治都市へと急変した。この都市化にともなって大規模な土地改変が行われ、これまでの発掘成果からその様相が明らかとなってきた。すなわち、同市内の佐助ヶ谷遺跡では下位よりやや大型の整地用泥岩層、泥岩の版築層、遺物包含層があって、これらが繰り返し堆積している(佐助ヶ谷遺跡発掘調査団, 1993)。また、市内各地における切岸と呼ばれる防御施設の構築により人工的に切り立った崖も造られるなど、谷部における大規模な土木工事の様相がうかがわれる。一方、北条小町邸跡では円礫・泥岩塊・貝殻片・砂などを敷いた生活面が4面認められ(鎌倉市教育委員会, 1996a)、低湿な沖積低地部における幾重もの盛土の様相が示されている。

当時の鎌倉においてこれら土地改変に加え、急激な人口増加にともなう建築材・生活部材などの木材利用の激増が推察される。若宮大路周辺遺跡群 No. 242遺跡では樹種同定を行った142点のうち